

国労本部電送No.222号	発信日	発信 企画部	責任者	受領者
	2025年6月19日			

闘争指示第56号

各エリア・地方本部闘争委員長 殿

貨物「2025年度夏季手当の妥結」にあたって

(1) 貨物会社は6月12日、「2025年度夏季手当の支給に関する申し入れ（国労闘申第14号）」に対し「基準内賃金の1.73箇月分、7月7日支払い」の回答を行った。

席上本部は、「生活必需品の相次ぐ値上げで生活は厳しさを増している中、回答は物価高騰に追いつかず、生活改善には程遠いもので、国労要求からも大きく乖離する低額回答に社員と家族は落胆しかない。この間、自然災害への対応や輪軸不正問題により失墜した貨物会社の信頼回復のため、昼夜を問わず努力を続けてきた社員に何ら報いることなく、経営課題を最優先する姿勢は社員に責任転嫁するものでしかない」と厳重に抗議をおこない、取り扱いについては「持ち帰り」とした。

本部は直ちに闘争指示第55号を発し、貨物会社の低額回答に対して、全国の職場から抗議行動を展開してきた。

(2) 2025年度夏季手当の闘いは、5月12日のJR各社一斉申し入れ以降、6月12日の回答まで4回の交渉を積み重ねた。

交渉では、賃上げが物価上昇に追いついていない状況が続くなか、実質賃金が4カ月連続でマイナスとなり、米価の異常な高騰をはじめ、食料品の相次ぐ値上げや、光熱費の高止まりも家計に重くのしかかっている。社員の生活はゆとりがなくなり、人間らしい余暇すら奪われ、預貯金もままならない生活水準を強いられている中で、生活費の補てんとして夏季手当の満額回答に期待する社員の切実な現状や、物流の2024年問題を背景とした輸送量の回復をはじめ、運賃改定効果により2024年度決算では連結で前年比56億円と大幅改善し、大規模な設備投資に於ける新たな収入への期待など、貨物会社の支払い能力を踏まえ、国労要求の正当性を明確にし、団体交渉を強化してきた。闘いの中心では、宣伝行動と総対話を重視し、地方の取り組みでは、学習会の開催や職場での意思統一、独自ビラ等の発行、現場長申し入れ、中央の交渉に呼応した本社・支社・支店への要請行動、全ての社員を対象とした総対話活動など創意工夫した取り組みを全力で展開し、夏季手当カベ新聞は7号・ビラ2号を発行してきた。

(3) 夏季手当「1.73箇月分」の回答は極めて不満の残るもので、社員と家族の生活に責任を負う回答には程遠いものである。

環境問題を追い風に、鉄道貨物輸送へのシフトが進展する中で、運賃改定やダイヤ改正効果もあり、輸送量の増加に加え、関連事業での増収など、総合物流企業として

の進化に期待を寄せるなか、社員は日々の厳しい生活への補填として夏季手当での還元を期待し満額回答を求めてきた。

一方、貨物会社は単体での4期連続の赤字や、コスト増、繰り返される自然災害の影響による計画未達を理由に低額回答を繰り返しているが、物価高騰で厳しい生活を強いられている社員と家族の切実な声に耳を傾けようしない貨物会社経営陣の責任は重大である。社員に広まる諦めと将来不安の根底にあるのは、最高益を出しても正当な利益を分配しようとせず、人件費を経営課題の調整弁として抑制し、将来展望を何ら示せない経営陣に対する不満の蓄積であり、「利益の還元は手当で行う」としてきたこの間の交渉経緯を反故にし、社員犠牲の大本である構造矛盾を放置し続ける貨物会社の経営姿勢は許されるものではない。同時に、JR発足から労使一体化を強め、労働者の犠牲も厭わず、低額回答に席上妥結を続けるJR貨物労組幹部の反労働者的態度を批判しなければならない。

貨物会社が経営課題を前面に一層の社員犠牲を強めている今日、労働組合が果たす役割はますます重要となっている。貨物会社で働く全ての社員を対象に、労働条件が改善されない根底にある真の原因の学習を強化し、支払い体力をはじめ、要求の正当性に確信を持ち、闘いに奮起する取り組みが今ほど求められている時はない。職場での不満や悩みに真摯に向き合い、労働者を裏切らない国労の取り組みに共感し、信頼を寄せる仲間が無数に存在することに確信を持ち、最大の要求闘争である組織強化・拡大に向け、新たな仲間の結集に繋げていくことが重要であり、組織の多数派を展望した取り組みを引き続き強化していかなければならない。

- (4) 貨物会社は売り手市場の中で人材流出を喫緊の課題と捉え、春闘では若手社員のみを対象に一過性の対応を行うも、世代間での不満は増大し、評価制度の下で社員間の分断はより混迷を深め、組合不要論も加速してきている。これ以上のモチベーションの低下は安全輸送を脅かす問題にも発展しかねないものと危惧することからも、労働組合が労働者の権利の担い手として、その重要性と魅力を十分に宣伝強化するとともに、国労が繰り返し主張する「構造矛盾の解決なくして鉄道貨物輸送の真の発展はない」ことを改めて確信にするとともに、この間、幾度にわたり提起してきた『鉄道貨物政策提言』に確信を持った運動の展開が重要となっている。
- (5) 本部は本日(6月19日)、夏季手当満額獲得における闘いの経過と到達点を明らかにするとともに、組織拡大をはじめ、労働条件改善に向けた更なる闘いの課題を明確にし、組合員・家族の生活等を考慮し「2025年度夏季手当」について妥結することとした。夏季手当満額獲得に向けた全国からの奮闘、創意工夫した取り組みに改めて感謝しつつ「2025年度夏季手当」の妥結にあたっての本部見解とする。

2025年6月19日

国鉄労働組合